

東日本大震災・支援レポート

3月11日の東日本大震災の発生から3ヶ月が過ぎ、被災地では津波や地震による大きな爪あとが残る中で復興に向けて地道な活動がなされていますが、復興にはさらに長い時間がかかることが予想され、被災された方々の疲労も日ましにつのっています。

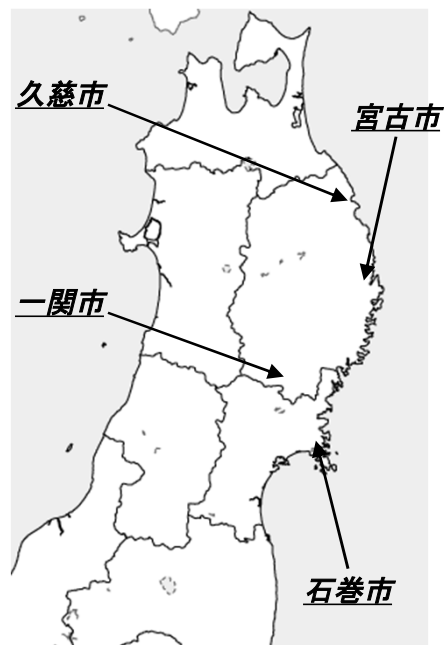
日本聖書協会では震災後から継続的に被災地に入り現地の皆さんのお声を伺いながら、聖書の贈呈を中心に必要な支援を行っており、前号の「からし種」でもご報告させていただきました。今号では4月26日～28日、6月8日～10日に宮城・岩手両県の被災地を訪問支援させていただきましたことをご報告いたします。

第3回訪問（4月26日～28日）

訪問地：宮城県仙台市、石巻市

支援聖書：聖書20冊、絵本聖書108冊、マンガ聖書20冊

4月中旬の気仙沼市、大船渡市、釜石市への訪問に続いて、今回は渡部信総主事をはじめ3名の職員が宮城県石巻市にまいりました。既に幹線道路や新幹線の復旧も進んでいたため、今回は仙台まで東北新幹線で行き、車を借りて聖書を積み込み、石巻市の被災地に入りました。太平洋岸の港町である石巻市も他の被災地同様、市内の各所に瓦礫が積み上がっており、地震、津波による大きな爪あとが生々しく残っていました。今回の震災被害の多くは地震そのものよりも津波によるものが大きかったといいますが、そのことを改めて実感させられました。27日に訪れた日本基督教団石巻栄光教会では礼拝堂は無事でしたが、教会附属の幼稚園が津波による床上浸水と共に建物に大きな被害を受けたということです。ボランティアの方々が教会を拠点として活動しておられました。その他、歴史ある古い会堂をもつ日本基督教団山城町教会やカトリック石巻教会も訪ねて聖書のほか、子どもたちに読んでもらえるようにという思いをこめて絵本聖書、マンガ聖書をお渡ししてまいりました。今回の訪問では、避難所となっている石巻市立鹿妻小学校を訪ねて、被災地で活動しているキリスト教援助団体クラッシュ・ジャパンと協力して一般の被災者の方々に配布していただくために聖書160冊の贈呈も行いました。



日本基督教団石巻栄光教会にて小鮎寛牧師(右)に絵本聖書を贈呈する渡部信総主事(中央)



瓦礫が残る石巻市内の様子



石巻市立鹿妻小学校の避難所に聖書を贈呈

現在までに約4,800冊の聖書、聖書関連図書を皆さまのご献金により被災地にお届けすることができました。

これからも、引き続き貴いご支援をよろしくお願いいたします！